SUEMURA EIICHIRO

守谷市議会議員 すえむら 英一郎 後援会ニュース

MORIYA CITY COUNCIL MEMBER

もりや市議会だより　2017年10月号　【討議資料】

どちらを向いて議論しているのか、そういう話と感じます。

今定例会において**「新守谷駅自由通路整備事業」**に関して非常に活発な議論が行われました。
本事業は、新守谷駅のつくばみらい市側、開智学園のそばへ駅の上を超えて渡る為の橋を建設するものです（国費による補助金もあります）。

当初は守谷市の負担額が 6000 万円ほどの予定でしたが、詳細設計の結果、工事費用が膨らむことがわかり、今定例会で１億２千万円へと増額修正をしたいとの補正予算が上がりました。

私は疑問があり反対致しましたが、議案自体は賛成多数により可決となりました。
総じて、一般財源の出資者である守谷市民を置き去りにした論点が委員会においても大きな影響力を発揮し、可決の流れとなったように感じ疑問を抱いております。

まず、仮に議案を否決すると、一度始まっている事業でもあることから、これはもう間 違いなく守谷市議会は開智学園から告訴される、そのぐらい責任のある話であるといった意見がありました。
しかしそもそも、平成 28 年度段階から概算の見積もりにて予算請求をし、まずは事業をスタートさせ、その後に増額修正を行うという選択は執行部の判断です。
そのような選択の結果、訴訟されるリスクが生じるので、後から疑問を唱えることができない。
最終的にいくらかかっても認めるしかないんですよとなってしまうのだとしたら、今後議会の存在意義もなくなってしまいます。
もう１つ、色々な人脈の努力の上、やっと国費を付けて頂いたのに一度断ってしまうと、今後は守谷市に国費等が付かなくなってしまうのではないかという意見もありました。

守谷市民にとっての政策合理性を無視して、国や県が一度断った相手には補助金を付けないといった理不尽な対応をしてくる現実が仮にあるとしたら、そこに対して疑問を提示して、国などと戦うのは私たち守谷市議会、そして松丸市長を始め実行部の責務ではないかと思います。

ざっくばらんに表現をしまして、（例えば）国の機嫌を損ねるわけにはいかないので、守谷市民の皆さま６千万円が１億２千万円に増えましたけどどうか負担をして下さい。
それで納得は到底頂けないのではないかと考えます。